



平成26年9月1日

卓話 『消費者が知らないクリーニング事情』

株式会社レジュイール 取締役会長

古田 武様

皆さまこんにちは。東京城西ロータリークラブの古田です。クリーニングって生活に密着しているが知らないことが多いですね。今日はドライクリーニングのお話をさせていただきたいと思います。

ドライクリーニングの溶剤は石油のナフサで、これが洋服の洗濯表示に書いてある石油系ドライです。それから有機溶剤といわれるものが何種類かあります。有機溶剤も元素は炭素なので、これも石油です。だからドライクリーニングは石油で洗っていると思って下さい。汗など水溶性の汚れは油が水を溶かすことはないのだから落ちません。汗は99.97%が水分で0.03%の中にコレステロールとか尿素、塩分、タンパク質などが入っていて、それが衣類について1か月ぐらいすると空気中の酸素と化合して変色します。また男性は大体45過ぎると尿の切れが悪くなります。すると残尿が付いて、何回も繰り返しているうちにシミが酸化されて、ひどいのは洋服の色を抜いてしまう。汗とか残尿を部分的に取ってくれるクリーニング屋さんには、私は聞いたことがありません。手間がかかるのと素材を知らなきゃいけない。うちでは入って2年ぐらいすると尿や汗の除去を朝から晩までやらせています。

石油系以外のクリーニングの機械は複雑で有機溶剤を使っています。溶剤は洗濯ものを洗ったあと蒸留されたり冷却されて液体に戻ったりしてぐるぐる回ります。この機械の場合は白いものが黄色くなるということはあまりないです。石油系溶剤を使う簡単な方の機械は日本のクリーニング屋さんの85%が使っています。戻って来て嫌な

匂いがするのは石油が乾いてないんですね。だからビニールを外してくださいということになる。黄色くなったリウールが縮んだりするのは、この石油系溶剤が圧倒的に多い。

なんでもかんでもドライクリーニングでなく自分で洗えるものができるだけ洗ってほしいです。ヨーロッパではアパートなんか60度のお湯が出るんですね。いろんなものと一緒に洗いますが白いものはいつも真っ白です。皆さん夏終わってTシャツ洗って翌年出してみると汚くなってませんか。それは洗濯機任せで、しかも水で洗っているからです。私のワイシャツ、これ自分でシンクで襟とカフスをこすって、脂が付いていると思ったときは台所からジョイを持って来てブラシして50度のお湯で洗濯します。カシミアのセーターなんか簡単です。私は香港で買ったセーターを35年ぐらい着ています。シンクで中性洗剤で押し洗いしたあとよくすすいで、水を少なくしてヘアリンスを3プッシュぐらいし、よく混ぜて漬けて脱水機で30秒。それで平干しで自然乾燥のあとコインランドリーで乾燥。それでふっかふかです。それが最高のクリーニングなんですよ。

洋服は大事にすると私のカシミアじゃないけど35年も持ちます。どうぞ綺麗なものを着て、洋服を楽しんでいただきたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。

